



# Super Global Elementary school 五木東 SGEたより

平成31年2月22日（金）発行



## 次の世代を担って行く 五木の子供たちへ

第8回GC養成講座（グローバル・コミュニケーター養成講座）は、宮園語り部の会会長で「五木村 宮園の昔話」の編集委員をされた山下照公さんに宮園の昔話を話していただきました。親しみのある語り口調に、子供たちは体を乗り出して聞いていました。

### 【概要】

皆さんこんにちは。山下のじいちゃんです。みんなの元気な顔見てうれしかあ。今日は、二つの話をさせてください。

「もぐら打ち」の話をするね。この話には、「もぐら」と「わくど」と「太陽」が出てくるもんね。「わくど」で知ってる？五木の子供は「わくど」知ってるね。山におる、茶色で、黒くて、のそのそ歩くかえるの親分たい。じゃ、話すよ。

昔、もぐらは何もせん太陽に向かって矢を射ろうとしたげな。すると、わくどが「そぎゃんことしちやならんとばい。」て止めたげなたいな。もぐらは、そんなために陽の目ば見ることのできん土ん中で暮

らすことになっただげな。

わくどは太陽に「ご褒美になにか、ほしかもんはなにか」と言われ、「おどま冬の寒か日に水の中で卵を産まんばんとぼってん、それがつらか。三日でよかでぬっか日をくっやらんどか」て頼んだてたい。それで、冬に三日ぬっか日が続くと「わくど日和」と言うどげな。

今も昔ももぐらはやっかいもんたい。だけん、昔はもぐら打ちばしよったたい。1月14日に子どもが柳をわらでくびったもんば持って家の周りばたたいて廻るとたい。

「14日のもぐら打ち、もぐらはどこいった、家にか、外にか、お宿にか。そこらにおつたらぶつつぶせ。」ておめきよった。言葉は荒かぼってん、もぐらは憎らしかつたて言うこつたい。もぐらんと嫌われちやならんぞ、バチ当たりなこと、悪かことは絶対しちやならんばい。という話。

みんなも大人になった時、自分の子供に五木の昔話ばして聞かせてね。（※第二話は省略）